

令和 8 年度 視能訓練士学科 シラバス

西日本教育医療専門学校

第 1 学年

令和8年度入学生カリキュラム

区分	授 業 内 容	履修時数				履修 単位
		1 年	2 年	3 年	計	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					
	心理学	30			30	2
	文章表現	30			30	2
	生物学	30			30	2
	物理学	30			30	2
	数学・統計学	30			30	2
	英語	30			30	2
	保健体育	15			15	1
	情報処理	30			30	2
	コミュニケーションスキル	15			15	1
専門基礎分野	(1) 人体の構造と機能及び心身の発達					
	解剖学	30			30	2
	生理学	30			30	2
	臨床心理学	30			30	2
	保育学Ⅰ	15			15	1
	保育学Ⅱ	15			15	1
	(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	病理学		15		15	1
	眼科薬理学		30		30	2
	内科学		15		15	1
	高次脳障害学		15		15	1
	精神医学		15		15	1
	公衆衛生学		15		15	1
	看護学	20			20	1
	医療安全		15		15	1
	(3) 視覚機能の基礎と検査機器					
	視器の解剖・生理学	30			30	1
	視覚生理学	30			30	1
	眼科総合医療論		30		30	1
	眼科臨床検査学		60		60	2
	総合視能学			120	120	4
	(4) 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念					
	医療関係法規と医療倫理		30		30	2
	社会福祉	15			15	1
	医学概論	15			15	1
	眼科リハビリテーション	30			30	2
	特別支援教育	15			15	1
専門分野	(1) 基礎視能矯正学					
	生理光学Ⅰ	30			30	1
	生理光学Ⅱ	30			30	1
	生理光学実習Ⅰ		60		60	2
	生理光学実習Ⅱ		60		60	2
	基礎視能矯正学Ⅰ	60			60	2
	基礎視能矯正学Ⅱ	60			60	2
	基礎視能矯正学Ⅲ	60			60	2
	視能矯正学研究法			60	60	2
	(2) 視能検査学					
	視能検査学Ⅰ	60			60	2
	視能検査学Ⅱ	60			60	2
	視能検査学Ⅲ		60		60	2
	視能検査学Ⅳ		60		60	2
	視能検査学Ⅴ		60		60	2
	検査画像解析学			15	15	1
	(3) 視能障害学					
	眼疾病学	30			30	1
	神経眼科		30		30	1
	弱視各論	15			15	1
	斜視各論		60		60	2
	眼振各論		15		15	1
	(4) 視能訓練学					
	視能訓練学実習		60		60	2
	視能訓練学Ⅰ		60		60	2
	視能訓練学Ⅱ		60		60	2
	視能訓練学Ⅲ		60		60	2
	ロービジョン学		30		30	2
	(5) 臨地実習					
	臨地実習			600	600	15
	臨地実習事前・事後指導			40	40	1
各学年年間合計		920	915	835	2670	106
合計						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	心理学			担当講師	三浦 佑子	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	図説心理学入門：斎藤勇編 誠信書房					
学習目標	身近な心理学的現象や基礎的な知識を通していろいろな心理学の領域を知る。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	心理学とは何か、その成り立ちと領域について理解する					
第2回	知覚と認知の領域から物の見え方、見方の心理について学ぶ					
第3回	人間の「欲求」の種類や動機づけ、行動や葛藤について学ぶ					
第4回	感情とは何か、そのはたらきや心理について学ぶ					
第5回	「学習」により、思考や行動がどのように変化し、獲得していくのかを学ぶ					
第6回	「記憶」と「忘却」の心理について、事例を通して学ぶ					
第7回	「発達」とは何か、その概念と様相について学ぶ					
第8回	「発達」と「教育」に関わる問題について事例を通して学ぶ					
第9回	人間の心の問題について、その現象や種類を学ぶ					
第10回	「性格」とは何かについて自分や他者の行動から考察する					
第11回	人間関係の心理について、事例を通して学ぶ					
第12回	脳と生理心理学から心とからだの関係について学ぶ					
第13回	臨床心理学とは何か、その特性を事例を通して学ぶ					
第14回	いろいろな心理療法について学び、心のケアへの活かし方を考察する					
第15回	講義のまとめと考察：心理学の学びを通して自分自身を振り返る					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	文書表現			担当講師	古江 伸一郎	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布プリント等					
学習目標	論理的思考を意識し、相手に理解されるような自己の主張を表現する技能を身につける姿勢を学ぶ。また、表現力や論理的な文章力を養い、小論文等で活用できる表現技術を高める					
成績評価の方法と基準	授業に取り組む姿勢を加味し、終講時試験により、80点以上を優、70点以上良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	コミュニケーション力を育てるため、自己紹介・自己アピールを行う。					
第2回	文章表現学の概論を行う。					
第3回	自分のことを、どう他人に知ってもらうのかを文章に表す。					
第4回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第5回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第6回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第7回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第8回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第9回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第10回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第11回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第12回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					
第13回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					
第14回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					
第15回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	生物学			担当講師	本郷 文和	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義 教科書を中心にプリントを用いて理解を深める。					
使用教科書・ 使用教材	看護・医療系 学生のための 生物学講義					
学習目標	生物の生態、機能、構造を、主に動物を中心に理解する。 その上で、ヒトにおける正常な生理機能、または機能不全による様々な疾患を理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%) に出席状況(20%) を加味し、80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	細胞と器官 (細胞の構造と働き)					
第 2 回	(細胞の浸透現象,動物の組織と器官)					
第 3 回	物質交代とエネルギー (酵素の特性と種類)					
第 4 回	(動物の栄養と消化,動物体内の物質移動)					
第 5 回	(動物体内でのガス交換,酸素呼吸,ATP とエネルギー)					
第 6 回	(筋肉の構造と働き)					
第 7 回	動物の恒常性と調節 (恒常性の維持,血液の循環)					
第 8 回	(血液型,血液凝固のしくみ,抗原抗体反応)					
第 9 回	(老廃物の排出,内分泌腺とホルモン,自律神経と働き)					
第 10 回	(血糖値の調節,糖尿病)					
第 11 回	神経系とその働き (神経系のしくみ,神経の構造と伝達)					
第 12 回	(受容体と作動体,光による刺激)					
第 13 回	遺伝の法則 (メンデルの遺伝の法則,一遺伝子雑種)					
第 14 回	遺伝子と染色体と変異 (性決定,伴性遺伝)					
第 15 回	テスト対策 (問題練習)					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	物理学			担当講師	戸田 善人	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義 教科書とプリント教材を中心に講義を行う。					
使用教科書・ 使用教材	まるわかり！基礎物理（南山堂出版）					
学習目標	物理の基礎となる力学を理解し。熱力学・波動・電磁気・原子分野の基礎的知識を学ぶ。特に波動では、光学についての理解を深める。					
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	物理を理解するための道具とルール（物理で使う数字・文字、数学）					
第2回	力学の基本（等速直線運動、加速度運動、落下運動）					
第3回	物体の運動と力の関係（力の表し方と式の使い方、身のまわりの力）					
第4回	圧力のはたらきと物を回転させる力（身のまわりの圧力とつりあいの状態）					
第5回	エネルギーとその保存則（力の効果、いろいろなエネルギー、保存とその利用）					
第6回	運動量と視点の違いにより感じる力（運動量、相対速度、慣性力）					
第7回	気体分子の運動と熱エネルギー（熱の性質、気体が周囲におよぼす力）					
第8回	波の性質とその表し方（波の表し方と2種類の波、グラフと式、縦波と横波）					
第9回	波ならではの現象、波の性質、反射の法則、定常波、波の回折、波の干渉					
第10回	波で理解する音と光の現象（音の性質と音程、音波の媒質、伝わる速さ、高低）					
第11回	波としての光の性質、光の色と波長、干渉、屈折率、屈折と反射、全反射					
第12回	光の屈折とレンズの利用、凸レンズ、凹レンズ、光の散乱					
第13回	静電気の力とその表し方（電気の力の表し方、電荷が受ける力とエネルギー）					
第14回	原子の構造と半導体・放射線（原子の構造と表し方、半導体、放射線の性質）					
第15回	総復習とテスト対策（問題演習）					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	数学・統計学			担当講師	竹内 誠之	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	配布資料					
学習目標	高校までの復習を行い、十分な計算能力を身につける。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	高校までの復習テスト					
第2回	高校まで復習					
第3回	高校までの復習					
第4回	連立一次方程式を理解する					
第5回	因数分解を理解する					
第6回	2次方程式を理解する					
第7回	三角比を理解する					
第8回	指数の表現を理解する					
第9回	単位の換算					
第10回	対数を理解する					
第11回	指数と対数の計算ができる					
第12回	数の統計的取扱い					
第13回	統計分布Ⅰ					
第14回	統計分布Ⅱ					
第15回	総括					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	英語			担当講師	三浦 弘文	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	英文による名言、金言、格言					
学習目標	英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、医療現場で必要な英語表現を運用できる力を身につける。					
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学 習 内 容					
第1回	Chapter 1.英語の文法（動詞、形容詞、副詞）について理解を図り、活用する。					
第2回	Chapter 1.英語の文法（比較、代名詞、疑問詞）について理解を図り、活用する。					
第3回	Chapter 1.英語の文法（進行形、完了形、受動態）について理解を図り、活用する。					
第4回	Chapter 2.英語の基礎構文（5文型）について理解を図り、活用する。					
第5回	Chapter 2.英語の基礎構文（修飾語句）について理解を図り、活用する。					
第6回	Chapter 2.英語の基礎構文（接続詞、仮定法）について理解を図り、活用する。					
第7回	Chapter 3.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第8回	Chapter 3.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第9回	Chapter 3.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第10回	Chapter 4.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第11回	Chapter 4.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第12回	Chapter 4.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第13回	Chapter 5.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第14回	Chapter 5.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第15回	Chapter 5.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	保健体育		担当講師	諸隈 淳子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	実技					
使用教科書・ 使用教材	無 ※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もある。					
学習目標	①生涯にわたってスポーツ・運動を自ら実践することができる能力を身につける。 ②スポーツ・運動の楽しさを感じ、健康の維持増進に努めることができるようになる。 ③各スポーツのゲームやスポーツ大会の企画運営ができるようになる。 ④視能訓練士として、求められるニーズへのサポートができるようになる。 ⑤運動の楽しさを通じて、共に学ぶメンバーとの関係を築くことができる。					
成績評価の 方法と基準	①評価の観点 授業態度（30％）、授業貢献度（30％）、運動技能（20％）、レポート（20％）で行う。 ②評価は4段階で行う。 80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	オリエンテーション 体ほぐし運動					
第2回	軽スポーツ					
第3回	選択スポーツ1（バレーボール・バスケットボールの基本）					
第4回	選択スポーツ2（バレーボール・バスケットボールの応用）					
第5回	選択スポーツ3（バドミントン・ミニバレーの基本）					
第6回	選択スポーツ4（バドミントン・ミニバレーの応用）					
第7回	チーム対抗スポーツ大会①					
第8回	チーム対抗スポーツ大会②・まとめ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	情報処理			担当講師	木下 幹朗	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	パソコンの基礎操作と実践的な操作ができる 文書作成、表作成作成ができる プレゼン用の資料作成と効果的なデザインができる					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	パソコンの環境設定、使用するデータの配布、タイピング練習、ファイル操作、フォルダ操作					
第2回	タイピング練習、文書作成（文字書式、段落書式、画像の挿入）					
第3回	タイピング練習、文書作成（見た目のバランスを整えたレイアウト編集）					
第4回	タイピング練習、文書作成（総合的な演習）					
第5回	タイピング練習、表計算（表作成、罫線編集）					
第6回	タイピング練習、表計算（四則演算、基本関数）					
第7回	タイピング練習、表計算（四則演算、基本関数）					
第8回	タイピング練習、表計算（グラフの作成・並べ替え・フィルター）					
第9回	プレゼンテーション資料作成（基本操作、編集操作）					
第10回	プレゼンテーション資料作成（指定の課題に沿った資料作成）					
第11回	プレゼンテーション資料作成（指定の課題に沿った資料作成）					
第12回	プレゼンテーション資料作成（指定の課題に沿った資料作成）					
第13回	プレゼンテーション資料作成（発表）					
第14回	動画・資料から学ぶ情報セキュリティ対策					
第15回	試験に向けた総まとめ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	コミュニケーションスキル		担当講師	山本直子		
対象学年	1 年	履修時数	15時間	単位数	1単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	配布資料					
学習目標	①職場で必要な様々なコミュニケーションを知る。 ②コミュニケーションと対人関係、業務との関連について理解し実践に繋ぐ。 ③ロールプレイやワークを通じて実践し、日々の行動で身につけていく。					
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)に提出物および授業参加姿勢(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	オリエンテーション、自己探求、自己理解					
第2回	他者理解 ヒアリングとプレゼンテーション					
第3回	ビジネスシーンでのコミュニケーション① 《非言語メッセージ》 挨拶、身だしなみ、立ち居振る舞いなど					
第4回	ビジネスシーンでのコミュニケーション② 《言語メッセージ》 敬語、様々な言葉遣いの決まり、ほう・れん・そう					
第5回	好感・安心感を高めるコミュニケーション① 受容と共感、傾聴のスキル、質問の仕方					
第6回	好感・安心感を高めるコミュニケーション② アサーティブなコミュニケーション					
第7回	医療・介護・保健におけるコミュニケーションを考える視点と役割					
第8回	講義の振り返りとまとめ					

令和 8 年度講義計画（シラバス）

学科名		視能訓練士学科		科目区分		専門基礎分野	
科目名		解剖学		担当講師		富澤 一仁	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位		
講義方法	講義						
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学、医学書院						
学習目標	視能訓練士として必要な人体の構造に関する知識を学び、その上で疾患や障害を理解する。						
成績評価の 方法と基準	期末試験のみで80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。						
講義回数	学習内容						
第1回	細胞の構造 細胞の構造、細胞内小器官の構造を知る						
第2回	運動器（骨） 骨格の構造と仕組みを理解する						
第3回	運動器（筋肉） 骨格筋の構造と機能を理解する						
第4回	神経系（1） 脳、脊髄の構造と機能を理解する						
第5回	神経系（2） 大脳辺縁系の構造と機能を理解する						
第6回	循環器 心臓、血管の構造を理解する						
第7回	呼吸器 肺の構造を理解する						
第8回	消化器 食道、胃、腸の構造を理解する						
第9回	肝臓、膵臓、胆嚢 肝臓、膵臓ならびに胆嚢の構造を理解する						
第10回	腎臓 腎臓、膀胱の構造を理解する						
第11回	男性生殖器 男性生殖器の解剖と機能を理解する						
第12回	女性生殖器 女性生殖器の解剖と機能を理解する						
第13回	感覚器（1） 聴覚器の構造と機能を理解する						
第14回	感覚器（2） 味覚器と嗅覚器の構造と機能を理解する						
第15回	まとめ これまで学んだことについて、国試問題などで再確認する						

令和 8 年度講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	生理学			担当講師	富澤 一仁	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学、医学書院					
学習目標	視能訓練士として必要な人体の正常な生理機能を学び、その上で疾患や障害を理解する。					
成績評価の 方法と基準	期末試験で80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	恒常性維持機構	生体の恒常性維持機構を理解する。				
第2回	細胞の興奮と様々な組織	細胞の電氣的興奮と人体を構成する各組織の機能を理解する				
第3回	体液・血液	体液・血液の組成を理解する				
第4回	血液の機能	酸素運搬、血液凝固機能、血液型を理解する				
第5回	生体の防御機構	生体の防御機構のしくみを理解する				
第6回	循環器	血液循環機能を理解する				
第7回	呼吸器	呼吸の仕組みを理解する				
第8回	消化器	栄養の消化、吸収の仕組みを理解する				
第9回	肝臓、膵臓、胆嚢	エネルギー・薬物代謝、血糖調節の仕組みを理解する				
第10回	腎臓	尿の生成と排出の仕組みを理解する				
第11回	ホルモン（1）	視床下部ホルモン、下垂体ホルモンの機能を理解する				
第12回	ホルモン（2）	甲状腺ホルモン、副腎ホルモンの機能を理解する				
第13回	妊娠・出産	妊娠・出産の機構、胎盤の機能を理解する				
第14回	感覚器（3）	視覚器の構造と機能を理解する				
第15回	まとめ	これまで学んだことについて、国試問題などで再確認する				

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	臨床心理学			担当講師	三浦 佑子	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	絶対役立つ臨床心理学 藤田哲也監修 串崎真志編著 ミネルヴァ書房					
学習目標	臨床心理学の知見を通して、現代社会における心理的な問題への対応や支援のあり方について考察する					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	臨床心理学について学ぶ意味を理解する					
第2回	パーソナリティの理解—個人差に注目する					
第3回	うつ病と抑うつ障害—ストレス社会を生きる					
第4回	不安症—恐れる気持ちとつきあう					
第5回	統合失調症—普遍的な心の病					
第6回	心的外傷後ストレス障害（PTSD）—癒しがたい心の傷					
第7回	発達障害—自閉症の理解と支援					
第8回	臨床心理学の理論と方法の歴史—心に対するさまざまな考え方					
第9回	精神分析—自分を深く見つめる					
第10回	認知行動療法—エビデンスにもとづくアプローチ					
第11回	人間性心理学—自分らしく生きる					
第12回	ナラティブ・アプローチ—心とセラピーを問い直す					
第13回	神経科学と生理心理学—心の生物学的基礎					
第14回	心理アセスメント—専門家による心の見立て					
第15回	講義のまとめと振り返り					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	保育学Ⅰ			担当講師	三浦 佑子	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	現代の子どもを取り巻く環境を考察し、子どもの育ちへの総合的な理解を図る。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもについて学ぶことの意味について					
第2回	子どもと発達についてー発達心理学の位置づけから考える					
第3回	子どもの健康と成長について					
第4回	養育環境と子どもー愛着とその障害について					
第5回	記憶と子どもー子どもの頃の思い出について					
第6回	子どもの成長と自然とのかかわりについて					
第7回	子どもの社会的スキルと仲間関係について					
第8回	子どもを取り巻く環境の問題と子育ての支援について					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	保育学Ⅱ			担当講師	三浦 佑子	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	現代における子どもの発達課題と支援のあり方について学ぶ					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもの権利と人権について					
第2回	乳幼児期の発達課題と特徴を理解した対応について					
第3回	児童期・思春期の発達課題と特徴を理解した対応について					
第4回	子どもの健康と障害及びその支援方法について					
第5回	子どもの表現（遊び）の理解と支援について					
第6回	多様な子どもの保育や支援方法について					
第7回	現代の子育てと支援とその課題について					
第8回	講義のまとめと振り返り					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	看護学			担当講師	大石 一美	
対象学年	1 年	履修時数	20 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義演習					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ					
学習目標	医療の基本を学び、清潔・不潔の概念を理解し、チーム医療の一員であることを理解する。					
成績評価の 方法と基準	平常点（10％）と筆記試験（90％）を合わせ、80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	医療従事者としての心構えを学ぶ					
第2回	看護技術の基本原則					
第3回	バイタルサインの観察（講義）					
第4回	バイタルサインの観察（演習）					
第5回	基本的活動の援助（講義）					
第6回	基本的活動の援助（演習）					
第7回	コミュニケーション					
第8回	救命、救急処置技術					
第9回	胸骨圧迫とAEDの使い方（演習）					
第10回	点眼の技術、感染防止の技術（講義、演習）					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科	科目区分	専門基礎分野
科目名	視器の解剖・生理学	担当講師	志柿俊光 ・ 河崎栄二
対象学年	1 年	履修時数	30 時間
	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務経験がある。眼科一般視機能検査に従事していた経験から、眼球の解剖および生理機能について講義する。		
講義方法	講義		
使用教科書・ 使用教材	① 視能学 第3版（文光堂）、② 配布プリント ③ 現代の眼科学 改定第13版（金原出版）		
学習目標	疾患理解の為の基礎的な眼球及び眼球付属器の解剖が説明できる		
成績評価の 方法と基準	筆記試験と小テスト、出席にて評価。80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下は不可とする。		
講義回数	学習内容		
第1回	眼球の解剖を学ぶ		
第2回	外膜の解剖を学ぶ		
第3回	中膜の解剖を学ぶ		
第4回	網膜について学ぶ		
第5回	水晶体・前房・隅角について学ぶ		
第6回	後房・硝子体について学ぶ		
第7回	眼球付属器の解剖を学ぶ		
第8回	涙器について学ぶ。		
第9回	眼窩・発生について学ぶ。		
第10回	眼球血管系を学ぶ。		
第11回	脳神経系の解剖（中枢神経系の各部の名称と役割）を学ぶ		
第12回	視覚伝導路と視覚情報処理		
第13回	眼の自律神経／瞳孔・調節・輻輳を学ぶ		
第14回			
第15回	演習問題		

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	視覚生理学		担当講師	河崎 栄二		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	配布資料 参考図書；①視能学(第3版)文光堂 視能矯正学(改訂第3版)					
学習目標	①視覚生理理解のための光学的基礎知識を理解する ②視機能（光覚・形態覚・色覚）を理解する ③視野検査及び電気生理検査の意義を理解する					
成績評価の方法と基準	期末試験100点満点の筆記試験にて評価する。80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	視覚生理の為の基礎知識 光の性質と単位					
第2回	光覚と順応					
第3回	視覚伝導路；視覚情報の伝達路					
第4回	視覚情報処理					
第5回	形態覚 少数視力					
第6回	形態覚 縞視力とコントラスト感度及び対数視力					
第7回	色覚 色の基本知識					
第8回	色覚 色覚の正常と異常					
第9回	色覚 色覚検査					
第10回	視野 視野の概念と検査の基礎知識					
第11回	視野 視野異常パターン					
第12回	視野 疾患と視野異常					
第13回	眼の電気生理 電気検査の種類及びERG					
第14回	眼の電気生理 VEP・EOG・EMG					
第15回	視覚生理の総復習					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	社会福祉			担当講師	宮崎 哲博	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	社会福祉とは何か。また、日常生活と社会福祉全般の関連性を学ぶ。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	福祉とは何か					
第2回	我が国の社会福祉の歴史					
第3回	社会保障制度について					
第4回	障害者福祉の法律					
第5回	障害者福祉の支援					
第6回	医療保険のしくみ					
第7回	医療保険の種類					
第8回	医療機関の機能					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名		視能訓練士学科		科目区分		専門基礎分野	
科目名		医学概論		担当講師		富澤 一仁	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位		
講義方法	講義						
使用教科書・ 使用教材	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論、中外医学社						
学習目標	視能訓練士が医療従事者として必要な医学や医療に関する基礎知識を学び、理解する。						
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて８０点以上を優、７０点以上を良、６０点以上を可とし、５９点以下を不可とする。						
講義回数	学習内容						
第１回	医学の定義と使命を理解する。医学の歴史に関する知識を習得する。						
第２回	ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセントなど医の倫理について理解する						
第３回	主要症状からその原因を探ることについて理解する						
第４回	人口統計の推移、疾病の変化など最新疫学データから見える日本や世界の将来像について理解する						
第５回	国民の健康状態と受療状況、および各医療職種とその現状について理解する						
第６回	日本の医療制度について理解する						
第７回	日本の各保険医療対策について理解する						
第８回	医師法、薬事法、衛生法規など医療関連法規を理解する						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	眼科リハビリテーション			担当講師	東 和孝・志柿 俊光	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義演習					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	視覚障がい概要を理解し、どのような援助、福祉サービスがあるのかを学ぶ。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験（80％）と出席点（10％）とボランティア参加（10％）分を加味し、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	視覚障害についての理解する。					
第2回	リハビリテーションの考え方、概要を学ぶ。					
第3回	障害福祉の各種制度やサービスについて学ぶ。					
第4回	補装具と日常生活用具の支給制度の概要、用具を紹介する。					
第5回	視覚障害者の見え方を体験する。					
第6回	社会適応訓練（歩行、コミュニケーション、ADL）、生活訓練の内容、歩行補助具の紹介する。					
第7回	視覚障害疑似体験Ⅰ（DVD鑑賞、あいさつ・基本姿勢、狭い所の通過）					
第8回	視覚障害疑似体験Ⅱ（溝またぎ、椅子への誘導、ドアの通過）					
第9回	視覚障害疑似体験Ⅲ（階段昇降）					
第10回	視覚障害疑似体験Ⅳ（講義の振り返り）					
第11回	点字の基礎を学ぶ					
第12回	障害者スポーツについて学ぶ					
第13回	盲導犬について（ビデオ鑑賞）					
第14回	盲導犬について（ビデオ鑑賞）					
第15回	まとめ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	特別支援教育			担当講師	松本 俊博	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント配付					
学習目標	特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別のニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。					
成績評価の方法と基準	レポート。 80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	特別支援教育とは。特別支援教育の歴史					
第2回	インクルーシブ教育					
第3回	障害者差別解消法と合理的配慮					
第4回	特別支援学校に学ぶ①					
第5回						
第6回	特別支援学校に学ぶ②					
第7回						
第8回	まとめ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	生理光学Ⅰ			担当講師	志柿 俊光	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。光学的屈折矯正検査に従事した経験から、眼内レンズ・眼鏡・コンタクトレンズの特性、レーシック・オルソケラトロジーの基礎知識について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	①屈折異常とその矯正 改定第7版（金原出版） ②視能学 第3版（文光堂） ③配布プリント					
学習目標	眼科の基礎検査である視力屈折検査を習得する 眼屈折系に関する理解を深める					
成績評価の方法と基準	筆記試験・小テスト・出席状況にて評価。80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	光の光学的特性を理解する					
第2回	レンズの種類と特性を理解する					
第3回	レンズの収差を理解する					
第4回	眼の光学系を理解する					
第5回	近視について理解する					
第6回	遠視について理解する					
第7回	乱視について理解する					
第8回	不同視を理解する					
第9回	遠点・近点①を理解する					
第10回	遠点・近点②の計算が出来るようになる					
第11回	検影値①を理解する					
第12回	検影値②の変換ができるようになる					
第13回	眼鏡矯正について学ぶ					
第14回	コンタクトレンズ、レーシック・オルソケラトロジーについて学ぶ					
第15回	総括					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	生理光学Ⅱ		担当講師	河崎 栄二	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。光学的屈折矯正検査に従事した経験から、眼内レンズ・眼鏡・コンタクトレンズの特性、基礎知識について講義する。				
講義方法	講義				
使用教科書・使用教材	配布資料 参考図書；①視能学(第3版)文光堂 ②視能矯正学(改訂第3版) 金原出版				
学習目標	①屈折異常の屈折状態（遠点・近点・焦線など）と屈折異常の度数表現を理解する。 ②調節機構を学び、調節力・調節域・明視域の理解とその計算ができる。 ③眼鏡矯正に必要な知識（頂間距離・不等像・プリズム偏心等）を学びその計算ができる。				
成績評価の方法と基準	課目修了筆記試験にて7割 課題レポート3割 の評価で60%以上				
講義回数	学習内容				
第1回	眼鏡レンズの物理学的基礎（主要点・結像図・Vergence）				
第2回	眼球光学系				
第3回	屈折異常の種類とその状態（遠視・近視・乱視）				
第4回	屈折異常の度数表現と矯正レンズの種類				
第5回	課題レポート1(巻末問題)解説				
第6回					
第7回	調節機序と遠点・近点・調節域及び調節の異常（老視）				
第8回	レンズ度数と眼屈折度数及び調節力計算（遠点・近点と調節力計算）				
第9回	矯正原理及び頂間距離と度数効果 みかけの調節量				
第10回	プリズム作用とプリズム効果				
第11回	課題レポート2(巻末問題)解説				
第12回					
第13回	眼鏡処方と諸問題				
第14回	コントラスト感度と空間周波数				
第15回	レポート3提出 総復習及び質疑応答				

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	基礎視能矯正学Ⅰ		担当講師	井手 浩一		
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査業務に従事した経験から、外眼筋の作用・神経支配、眼球運動、輻湊・開散、AC/A比の計算方法、斜視の基礎について講義する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	① 視能矯正学 改定第3版 金原出版 ② 視能学 第3版 文光堂					
学習目標	① 外眼筋の解剖・生理・法則を学び眼球運動を理解する ② 輻湊の種類および開散・生理的複視・AC/A比を理解する ③ 斜視の基本的知識について理解する					
成績評価の 方法と基準	筆記試験（90％）に出席点（10％）を合わせ、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	基礎視能矯正学Ⅰで学ぶ内容について理解する。					
第2回	眼球運動のしくみについて理解する。					
第3回	外眼筋の解剖と作用について理解する。					
第4回	外眼筋の種類と神経支配について理解する。					
第5回	単眼の眼球運動（水平・上下・回旋運動と正常範囲）について理解する。					
第6回	単眼の眼球運動（上下筋の作用と解剖）について理解する。					
第7回	両眼の眼球運動（共同運動 むき運動 離反運動 よせ運動）について理解する。					
第8回	両眼の眼球運動（共同筋と拮抗筋）について理解する。					
第9回	眼球運動に関する法則を理解する。					
第10回	小テストにて外眼筋、眼球運動について復習する。					
第11回	輻湊と開散の定義・発達について理解する。					
第12回	輻輳の種類について理解する。					
第13回	近見反応について理解する。					
第14回	輻湊と開散に関する検査について理解する。					
第15回	AC/A比の定義・計算法について理解する。					
第16回	小テストにて輻湊と開散、AC/A比の計算について復習する。					
第17回	眼位の定義・種類について理解する。					
第18回	斜視・斜位の種類について理解する。					
第19回	斜視の定義および斜位との違いを理解する。					
第20回	斜視の病因論（感覚系・運動系の異常）を理解する。					
第21回	斜視の病因論（屈折・調節の異常・脳障害・遺伝など）を理解する。					
第22回	さまざまな斜視の分類法（眼位ずれ、共同性・麻痺性）を理解する。					
第23回	さまざまな斜視の分類法（恒常性・間欠性）を理解する。					
第24回	さまざまな斜視の分類法（調節、輻湊・開散、固視眼）を理解する。					
第25回	さまざまな斜視の分類法（発症時、原因、両眼視、上下斜視）を理解する					
第26回	小テストにて斜視の基本的知識について復習する。					
第27回	まとめ（外眼筋の解剖・生理・法則を学び眼球運動）					
第28回	まとめ（輻湊の種類および開散・生理的複視・AC/A比）					
第29回	まとめ（斜視の基本的知識）					
第30回	総まとめで試験対策を行う。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科	科目区分	専門分野
科目名	基礎視能矯正学Ⅱ	担当講師	井手 浩一
対象学年	1 年	履修時数	60 時間
	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査業務に従事した経験から、両眼視機能の定義・異常、複視について講義する。		
講義方法	講義・演習		
使用教科書・ 使用教材	① 視能学 第3版 文光堂 ② 視能矯正学 第3版 金原出版 ③ 眼科検査ガイド 第3版 文光堂		
学習目標	① 正常両眼視機能とその成立機序を理解する。 ② 両眼視機能の異常を理解し、弱視・斜視を学ぶための基礎をつくる。 ③ 両眼視機能検査基礎を学ぶ。		
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。		
講義回数	学習内容		
第1回	オリエンテーション（外眼筋について復習する）		
第2回	両眼視機能（同時視・融像・立体視）について学ぶ。		
第3回	網膜対応、ホロプタ円とPanum融像圏、Vieth-Muller円について学ぶ。		
第4回	正常両眼視機能の成立条件を学ぶ。		
第5回	生理的複視を体験し、理解し、複視の種類を学ぶ。		
第6回	網膜正常対応と網膜対応異常についての概要を学ぶ。		
第7回	斜視・斜位の概要を学ぶ。		
第8回	眼位検査を復習する。		
第9回	網膜対応検査の検査法・判定について学ぶ。①Bagolini線条ガラス試験		
第10回			
第11回	網膜対応検査の検査法・判定について学ぶ。②偏光板試験、赤ガラス試験		
第12回			
第13回	眼位検査と網膜対応検査①②を体験する。		
第14回			
第15回	網膜対応検査の検査法・判定について学ぶ。③Worth 4 灯試験		
第16回	網膜対応検査③を体験する。		
第17回	網膜対応検査の検査法・判定について学ぶ。④大型弱視鏡		
第18回			
第19回	網膜対応検査④を体験する。		
第20回			
第21回	固視の概要について学ぶ。網膜対応検査の検査法・判定について学ぶ。⑤残像試験・残像転送試験・両眼ビズスコープ・その他網膜対応検査		
第22回			
第23回	立体視検査の原理について学ぶ。		
第24回	立体視検査を体験する。		
第25回	複視・網膜対応検査の復習		
第26回			
第27回	国家試験過去問題（両眼視・両眼視機能検査）		
第28回			
第29回	国家試験過去問題（両眼視・両眼視機能検査）解説する。		
第30回			

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	基礎視能矯正学Ⅲ		担当講師	西田 聖平		
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査業務に従事した経験から、斜視検査の種類・方法について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	① 視能学（第3版）文光堂 ② 視能矯正学 金原出版					
学習目標	・これまで学んだ斜視の基本的知識を基に様々な斜視検査ができる。 ・眼位検査の手技を習得する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	斜視検査における基本的知識の復習を行う					
第2回	斜視検査における基本的知識の復習を行う 2					
第3回	外眼筋の解剖を復習する					
第4回	単眼性眼球運動について説明することができる					
第5回	両眼性眼球運動について説明することができる					
第6回	単眼性眼位検査について説明し、検査することができる					
第7回	眼球運動検査の正常範囲、異常を理解する					
第8回	Hess赤緑試験を理解する					
第9回	両眼注視野、単眼注視野を理解する					
第10回	角膜反射を利用した眼位検査(Hirschberg)を理解する					
第11回	角膜反射を利用した眼位検査(Hirschberg)をすることができる					
第12回	角膜反射を利用した眼位検査(Krimsky)を理解する					
第13回	角膜反射を利用した眼位検査(Krimsky)をすることができる					
第14回	正切尺を利用した眼位検査を理解する					
第15回	遮蔽試験の基礎知識を学ぶ					
第16回	遮蔽一遮蔽除去試験を理解し、検査することができる					
第17回	交代遮蔽試験を理解し、検査することができる					
第18回	プリズムについて理解を深める					
第19回	同時プリズム遮蔽試験について理解する					
第20回	同時プリズム遮蔽試験を検査することができる					
第21回	単眼プリズム遮蔽試験について理解する					
第22回	単眼プリズム遮蔽試験を検査することができる					
第23回	交代プリズム遮蔽試験について理解する					
第24回	交代プリズム遮蔽試験を検査することができる					
第25回	回旋偏位の定量検査を理解する(Maddox)					
第26回	回旋偏位の定量検査を理解する(眼底写真)					
第27回	PATについて理解する					
第28回	総括					
第29回	臨床のお話					
第30回	試験対策					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能検査学Ⅰ		担当講師	宮川勇介 ・ 佐藤幸太郎		
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、視力検査方法、瞳孔間距離検査法について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第3版（文光堂） ②屈折異常とその矯正 改定第7版（金原出版）、③配布プリント					
学習目標	眼科の基礎検査である視力屈折検査を習得する 眼屈折系に関する理解を深める					
成績評価の 方法と基準	筆記試験・レポート・小テスト・実技試験にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可 とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	オリエンテーション					
第2回	眼球構造を学ぶ					
第3回	視力について理解する（1）					
第4回	視力について理解する（2）					
第5回	瞳孔間距離測定（1）測定法を理解する					
第6回	瞳孔間距離測定（2）実習し習得する					
第7回	近視について理解する					
第8回	遠視について理解する					
第9回	乱視について理解する（1）					
第10回	乱視について理解する（2）					
第11回	視力検査表を学ぶ					
第12回	裸眼視力検査を習得する					
第13回	自覚的屈折検査（1）測定法を理解する					
第14回	自覚的屈折検査（2）実習し習得する					
第15回	乱視表（1）測定法を理解する					
第16回	乱視表（2）実習し習得する					
第17回	乱視表（3）実習し習得する					
第18回	乱視表（4）実習し習得する					
第19回	クロスシリンダ（1）測定法を理解する					
第20回	クロスシリンダ（2）実習し習得する					
第21回	クロスシリンダ（3）実習し習得する					
第22回	クロスシリンダ（4）実習し習得する					
第23回	自覚的屈折検査演習（1）乱視表検査 個別指導					
第24回	自覚的屈折検査演習（2）乱視表検査 個別指導					
第25回	自覚的屈折検査演習（3）クロスシリンダ 個別指導					
第26回	自覚的屈折検査演習（4）クロスシリンダ 個別指導					
第27回	雲霧法（1）測定法を理解する					
第28回	雲霧法（2）実習し習得する					
第29回	オートレフラクトメータ 測定法を理解し実習する					
第30回	まとめ					

令和 8 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	視能検査学Ⅱ		担当講師	宮川勇介 ・ 佐藤幸太郎	
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、他覚的屈折検査方法、角膜形状検査方法、調節力検査方法について指導する。				
講義方法	講義・演習				
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第3版 (文光堂) ②眼科検査ガイド (文光堂) ③屈折異常とその矯正 改定第7版 (金原出版)、④配布プリント				
学習目標	・生理光学の基礎知識を生かし、眼球の解析技術と屈折矯正技術を習得する ・眼球の調節機能について学び、高齢者の視機能を理解する				
成績評価の 方法と基準	筆記試験・レポート・小テスト・実技試験にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	機器の位置合わせについて学ぶ。				
第2回	機器の位置合わせ、声掛け等の実技を行う。(オートレフ・SVSを用いた自覚的屈折検査)				
第3回	検影法の取り扱い方法について学ぶ。				
第4回	検影法による屈折値の求め方について学ぶ。				
第5回	検影法の実技を行う。				
第6回	検影法の実技を行う。				
第7回	検影法の国家試験過去問を解く。				
第8回	角膜検査の種類について学ぶ。				
第9回	スベキュラマイクロスコープの取り扱い・データの読み方について学ぶ。				
第10回	角膜トポグラフィの取り扱い・データの読み方について学ぶ。				
第11回	スベキュラマイクロスコープ・角膜トポグラフィの実技を行う。(自覚的屈折検査と併行)				
第12回					
第13回	調節力についての復習を行う。				
第14回	調節力に関する練習問題を行う。				
第15回	調節力に関する練習問題を行う。				
第16回	石原式近点計の取り扱いについて学ぶ。				
第17回	石原式近点計による遠点・近点の測り方の実技を行う。(屈折検査・近視視力検査・遠点・近点検査)				
第18回					
第19回	レンズメータによる単焦点眼鏡度数測定の実技を行う。(1回5～6人 併行して屈折検査・近点計の実習)				
第20回	レンズメータによる単焦点眼鏡度数測定の実技を行う。(1回5～6人 併行して屈折検査・近点計の実習)				
第21回	レンズメータによる単焦点眼鏡度数測定の実技を行う。(1回5～6人 併行して屈折検査・近点計の実習)				
第22回	レンズメータによる単焦点眼鏡度数測定の実技を行う。(1回5～6人 併行して屈折検査・近点計の実習)				
第23回	オートレフラクトメータの値を参考にした自覚的屈折検査の実技を行う。(実技試験)				
第24回					
第25回	グループに分かれて視力検査・検影法・スベキュラマイクロスコープ・角膜トポグラフィ・石原式近点計・レンズメータの実習を行う。				
第26回					
第27回					
第28回					
第29回	まとめ				
第30回					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	眼疾病学			担当講師	志柿 俊光	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	①現代の眼科学 改定第13版（金原出版） ②視能学 第3版（文光堂）					
学習目標	視覚器の解剖と機能を理解し、それぞれの眼疾患の概要を学ぶ					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	眼瞼の構造の復習と疾患について学ぶ。					
第2回	涙器の構造と生理について復習し、涙液検査学及び涙液疾患を学ぶ。					
第3回	結膜の構造を復習し、病像及び疾患を学ぶ。					
第4回	結膜感染症とその他結膜疾患について学ぶ。					
第5回	角膜の構造と生理を復習し、角膜検査および角膜の病態を学ぶ。					
第6回	角膜感染症とその他角膜疾患について学ぶ。					
第7回	ぶどう膜の構造と生理を復習し、先天異常とぶどう膜炎総論を学ぶ。					
第8回	ぶどう膜炎各論およびその他ぶどう膜疾患を学ぶ。					
第9回	網膜硝子体の解剖と生理について学び、正常眼底を理解する。					
第10回	異常眼底について学ぶ。					
第11回	主な網膜疾患について学ぶ。					
第12回	水晶体の構造と生理を復習し白内障を学ぶ。					
第13回	緑内障の定義及び特徴を学ぶ。					
第14回	全身病と眼及び外傷について学ぶ。					
第15回	期末試験問題の演習と解説					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分		専門基礎分野
科目名	弱視各論			担当講師		井手 浩一
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第3版 文光堂 ②視能矯正学 改訂第3版 金原出版					
学習目標	弱視についての基本的知識を理解し、弱視の各型について理解を深める。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験（90％）に出席点（10％）を合わせ、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	弱視の定義・原因について理解する。					
第2回	弱視の病態・分類について理解する。					
第3回	斜視弱視・微小斜視弱視について理解する。					
第4回	不同視弱視について理解する。					
第5回	屈折異常弱視・経線弱視理解する。					
第6回	形態覚遮断弱視について理解する。					
第7回	心因性視能障害の特徴と診断に基づく検査法について理解する。					
第8回	総まとめ					

令和 8 年度 視能訓練士学科 シラバス

西日本教育医療専門学校
第 2 学年

令和7年度入学生カリキュラム

区分	授 業 内 容	履修時数				履修 単位
		1 年	2 年	3 年	計	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					
	心理学	30			30	2
	文章表現	30			30	2
	生物学	30			30	2
	物理学	30			30	2
	数学・統計学	30			30	2
	英語	30			30	2
	保健体育	15			15	1
	情報処理	30			30	2
	コミュニケーションスキル	15			15	1
専門基礎分野	(1) 人体の構造と機能及び心身の発達					
	解剖学	30			30	2
	生理学	30			30	2
	臨床心理学	30			30	2
	保育学Ⅰ	15			15	1
	保育学Ⅱ	15			15	1
	(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	病理学		15		15	1
	眼科薬理学		30		30	2
	内科学		15		15	1
	高次脳障害学		15		15	1
	精神医学		15		15	1
	公衆衛生学		26		26	1
	看護学	20			20	1
	救急医療		15		15	1
	(3) 視覚機能の基礎と検査機器					
	視器の解剖・生理学	30			30	1
	視覚生理学	30			30	1
	眼科総合医療論		30		30	1
	眼科臨床検査学		60		60	2
	総合視能学			120	120	4
	(4) 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念					
	医療関係法規と医療倫理		30		30	2
	社会福祉	15			15	1
	医学概論	15			15	1
	眼科リハビリテーション	30			30	2
	特別支援教育	15			15	1
専門分野	(1) 基礎視能矯正学					
	生理光学Ⅰ	30			30	1
	生理光学Ⅱ	30			30	1
	生理光学実習Ⅰ		60		60	2
	生理光学実習Ⅱ		60		60	2
	基礎視能矯正学Ⅰ	60			60	2
	基礎視能矯正学Ⅱ	60			60	2
	基礎視能矯正学Ⅲ	60			60	2
	視能矯正学研究法			60	60	2
	(2) 視能検査学					
	視能検査学Ⅰ	60			60	2
	視能検査学Ⅱ	60			60	2
	視能検査学Ⅲ		60		60	2
	視能検査学Ⅳ		60		60	2
	視能検査学Ⅴ		60		60	2
	検査画像解析学			15	15	1
	(3) 視能障害学					
	眼疾病学	30			30	1
	神経眼科		30		30	1
	弱視各論	15			15	1
	斜視各論		60		60	2
	眼振各論		15		15	1
	(4) 視能訓練学					
	視能訓練学実習		60		60	2
	視能訓練学Ⅰ		60		60	2
	視能訓練学Ⅱ		60		60	2
	視能訓練学Ⅲ		60		60	2
	ロービジョン学		30		30	2
	(5) 臨地実習					
	臨地実習			600	600	15
	臨地実習事前・事後指導			40	40	1
各学年年間合計		920	926	835	2681	106
合計						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	病理学			担当講師	今村 隆寿・藤原 章雄	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院					
学習目標	疾病の成り立ちを病理総論的に理解する。					
成績評価の 方法と基準	期末試験100点満点の筆記試験にて評価する。80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	病理学とは					
第2回	先天異常と遺伝子異常					
第3回	代謝障害（アミロイドーシス、脂質代謝異常、タンパク質代謝異常など）					
第4回	循環障害（虚血、梗塞、ショック、側副循環など）					
第5回	炎症（炎症の転機、炎症の病理組織像、炎症の種類など）					
第6回	感染症（感染症の種類、感染経路、感染予防策など）					
第7回	腫瘍（腫瘍の命名法、進展様式、発癌機序など）					
第8回	免疫（液性免疫と細胞性免疫、アレルギーと自己免疫疾患など）					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	眼科薬理学			担当講師	大森 一彦	
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座専門基礎基礎分野薬理学、医学書院					
学習目標	薬の作用機序を理解する					
成績評価の 方法と基準	期末試験100点満点の筆記試験にて評価する。80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	薬理学を学ぶ目的を理解する					
第2回	薬が作用する細胞の構造と仕組みを理解する					
第3回	情報伝達系としての受容体の性質と種類を理解する					
第4回	神経の構造と情報伝達の仕組みを理解する					
第5回	中枢神経について理解する					
第6回	交感神経に作用する薬を理解する					
第7回	副交感神経に作用する薬を理解する					
第8回	点眼薬について理解する					
第9回	麻酔薬について理解する					
第10回	薬物の投与法について理解する					
第11回	薬剤の副作用を理解する					
第12回	副腎皮質ステロイドを理解する					
第13回	耐性と院内感染を理解する					
第14回	医薬品による健康被害を学ぶ					
第15回	総括					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	内科学			担当講師	後藤 知己	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布プリント					
学習目標	成人の内科学領域の疾患の基礎病態を理解する。また、眼科領域の症状と内科疾患との関連を理解する。					
成績評価の方法と基準	筆記試験にて 80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし、59 点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	循環器病について学ぶ					
第 2 回	代謝病について学ぶ 1					
第 3 回	代謝病について学ぶ 2					
第 4 回	呼吸器病・感染症について学ぶ					
第 5 回	消化器病・血液病について学ぶ					
第 6 回	免疫病・腎臓病について学ぶ					
第 7 回	神経病・内分泌病について学ぶ					
第 8 回	総括					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	高次脳障害学		担当講師	平田 好文		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布プリント					
学習目標	基礎的な神経学的症候の理解、神経疾患の理解目標					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて 80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	神経内科紹介					
第 2 回	神経解剖と画像					
第 3 回	神経症候学（高次脳機能障害中心）					
第 4 回	脳血管障害					
第 5 回	頭部外傷、脳腫瘍					
第 6 回	視力低下を生じる神経内関連疾患 1					
第 7 回	視力低下を生じる神経内関連疾患 2					
第 8 回	眼球運動障害、視野障害を生じる疾患					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	精神医学			担当講師	平原 信雄	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布資料					
学習目標	精神障害について、偏見なく正しい知識を身につける。					
成績評価の 方法と基準	授業態度に筆記試験を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	日本における精神科の現状、精神障害の分類、精神科領域の法律について学ぶ					
第2回	統合失調症について学ぶ					
第3回	気分障害について学ぶ					
第4回	神経症性障害について学ぶ					
第5回	器質性精神障害について学ぶ					
第6回	精神作用物質関連障害について学ぶ					
第7回	パーソナリティ障害、その他					
第8回	自殺について学ぶ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	公衆衛生学			担当講師	燕 龍大	
対象学年	2 年	履修時数	26 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 出版社：株式会社 医学書院					
学習目標	公衆衛生学の基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について考える力を養うこと。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて 80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可、 59 点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	疫学研究と実践					
第 2 回	公衆衛生学の概念					
第 3 回	信ぴょう性が高い健康情報とは					
第 4 回	健康情報がつくられる過程					
第 5 回	生活習慣と健康					
第 6 回	医学データの統計解析手法					
第 7 回	健康づくりの方法					
第 8 回	健康施策の推進					
第 9 回	子どもと健康、高齢者と健康					
第 10 回	産業保健					
第 11 回	感染症・精神衛生					
第 12 回	社会と健康、環境と健康、					
第 13 回	眼科疫学					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	救急医療			担当講師	宮川 勇介	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布資料					
学習目標	視能訓練士として安全な医療を提供するために必要な知識とスキルを習得することを目的とします。医療安全の基本的な考え方から、具体的な事例、関連法規、安全管理体制、リスクマネジメント、感染対策、医療倫理まで幅広く学びます。					
成績評価の方法と基準	筆記試験にて評価し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	医療安全の定義、重要性、歴史、現状、医療安全に関わる関係者の役割、医療安全の基本的な考え方（インシデント（ヒヤリハット）、アクシデント、医療事故/過誤など事例を交えて）					
第2回	医療法、医療安全管理指針、視能訓練士法、個人情報保護法、その他関連法規（医薬品医療機器等法、感染症法など）、医療安全に関するガイドライン（日本医療機能評価機構、厚生労働省など）					
第3回	医療機関における医療安全管理体制、医療安全管理者の役割、医療安全委員会、リスクマネジメント部門、インシデント・アクシデント報告システム、医療安全に関する教育・研修体制					
第4回	医療関連感染の現状、感染経路、標準予防策、感染症の種類と対策（MRSA、VRE、C.difficile など）、手指衛生、個人防護具の着用、医療廃棄物の処理、針刺し・切創対策					
第5回	視能訓練士業務におけるリスクの特定、評価、対策、医療事故の事例研究（眼科領域における医療事故、視能訓練士が関与した医療事故）、医療事故防止のための対策（ダブルチェック、タイムアウト、患者確認など）、医療機器の安全管理					
第6回	医療倫理の基本原則（自律尊重、善行、無危害、公正）、インフォームドコンセント、患者の権利、医療における倫理的ジレンマ、視能訓練士倫理綱領					
第7回	チーム医療の重要性、多職種連携、コミュニケーションの基本、コミュニケーションスキル（傾聴、共感、質問、説明など）、医療安全におけるコミュニケーションの重要性（情報共有、報告・連絡・相談など）、医療安全文化の醸成					
第8回	まとめ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	眼科総合医療論		担当講師	竹下 哲二 他		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	視能学、文光堂 現代の眼科学、医学書院					
学習目標	臨床で必要な眼科検査と眼疾患を各分野を関連付けて総合的に理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて評価し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	外眼部疾患、結膜疾患について学ぶ。					
第2回	角膜疾患、角膜移植について学ぶ。					
第3回	生理、薬理、涙器・涙液、ぶどう膜、水晶体、眼内レンズ、全身疾患、患者誘導について学ぶ。					
第4回						
第5回						
第6回						
第7回	斜視手術について学ぶ。					
第8回	網膜疾患について学ぶ。①					
第9回	網膜疾患について学ぶ。②					
第10回	網膜疾患について学ぶ。③					
第11回	緑内障について学ぶ。①					
第12回	網膜疾患について学ぶ。③					
第13回	緑内障について学ぶ。②					
第14回	前眼部疾患、検査について学ぶ。					
第15回	眼鏡、コンタクトレンズ以外の屈折矯正について学ぶ。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	眼科臨床検査学		担当講師	井手 浩一 ・ 宮川 勇介		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事していた経験から、問診のポイント、各種眼検査の実技、患者の誘導方法を指導する。					
講義方法	①スライドを使用し、投問に答える ②患者対応講義及び演習					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第3版（文光堂）②現代の眼科学 改訂第13版（金原出版）					
学習目標	疾患を理解し、疾患と関連ある必要検査を理解する 問診方法を知り、臨床上主な疾患に必要な問診が行える 安全誘導の必要性を学び、患者誘導に必要な手技が行える					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	診療録の意義、目的、記載法について学ぶ					
第2回						
第3回	ロールプレイングの実施方法について学ぶ					
第4回	問診の進め方、接遇とマナーについて学ぶ					
第5回	問診のロールプレイング（実技）					
第6回						
第7回	眼科領域の院内感染対策について学ぶ					
第8回						
第9回	視覚障害者の誘導の方法について学ぶ					
第10回	誘導のロールプレイング（実技） ① 診察室・検査室での誘導 ② 視覚障害者の誘導 ③ 車椅子の誘導					
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
第16回						
第17回	臨地実習を想定した口頭試問 ① 視力・屈折検査 ② 視野検査 ③ 眼疾患					
第18回						
第19回						
第20回						
第21回						
第22回						
第23回						
第24回						
第25回	検査学総復習 ① 各種器械の設定の確認 ② 各検査の説明の確認 ③ 各検査の手技の確認					
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	医療関係法規と医療倫理		担当講師	志柿 俊光		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	① 配布プリント ② 視能学 第3版（文光堂）					
学習目標	医療倫理と医療に関する法律を学ぶ					
成績評価の方法と基準	筆記試験と小テスト、出席にて評価。80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	倫理とは何か。義務論と功利主義について学ぶ。					
第2回	患者の権利に関するWMAリスボン宣言について学ぶ。					
第3回	生命倫理について学ぶ。					
第4回	ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、研究倫理について学ぶ。					
第5回	インフォームドコンセント、医療過誤と医療事故、医療水準について学ぶ。					
第6回	法規の基礎と視能訓練士法について学ぶ。					
第7回	医療法について学ぶ。					
第8回	医療保障制度について学ぶ。					
第9回	公費医療制度について学ぶ。					
第10回	運転免許と視機能について学ぶ。					
第11回	多職種連携と他職種の法規について学ぶ。					
第12回	その他法規について学ぶ。					
第13回	国家試験過去問題を解く					
第14回	国家試験過去問解説					
第15回	国家試験過去問解説					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分		専門分野	
科目名	生理光学実習Ⅰ		担当講師		宮川勇介・河崎栄二	
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、生理光学実習を指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	屈折異常とその矯正、1年次の視能検査学Ⅰ・Ⅱ、生理光学Ⅰ・Ⅱで配布した資料。					
学習目標	生理光学に関係する計算問題を実技を通して理解する。					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験8割、レポート2割にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	眼鏡検査・眼鏡レンズ設計について学ぶ。（宮川）					
第2回						
第3回	他覚的屈折検査（検影法、オートレフケラトメータ）を学ぶ。（河崎）					
第4回						
第5回	調節力検査について学ぶ。（河崎）					
第6回						
第7回	レンズメーター（単焦点、累進屈折力、多焦点、プリズムレンズ）の測り方を学ぶ。					
第8回						
第9回	レンズメーター（単焦点、累進屈折力、多焦点、プリズムレンズ）の測り方を学ぶ。					
第10回						
第11回	両眼開放視力検査法について学ぶ。（宮川）					
第12回						
第13回	・ レンズメーター ・ 他覚的屈折検査 ・ 調節検査 ・ 両眼開放視力検査 4つの項目をグループに分かれて2回実技実習					
第14回						
第15回						
第16回						
第17回						
第18回						
第19回						
第20回						
第21回						
第22回						
第23回						
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回	関連する過去の国家試験問題（屈折関係、調節力・明視域）を解説する。					
第30回						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	生理光学実習Ⅱ		担当講師	宮川勇介・河崎栄二		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、コンタクトレンズ処方手順、眼鏡処方手順、レンズメータの使用方法について指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	屈折異常とその矯正					
学習目標	各種コンタクトレンズの特徴と処方及び装用指導ができるようになる。 眼鏡処方ができるようになる。					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験8割、レポート1割、校外活動1割にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	CL・CLケア基礎知識を学ぶ。（メニコン）					
第2回	コンタクトレンズケア用品を学ぶ。（宮川）					
第3回	SCL他眼装脱を学ぶ。（メニコン）					
第4回	SCL他眼装脱実習する。残余乱視とコンタクトレンズ選択を学ぶ。（宮川）					
第5回	SCLフィッティングを学ぶ。（メニコン）					
第6回	残余乱視とコンタクトレンズ選択②を学ぶ。（宮川）					
第7回	HCL知識（フィッティング・取扱い・他眼装脱）を学ぶ。（メニコン）					
第8回	SCLフィッティング実習する。					
第9回	HCL他眼装脱・フィッティング実習 視力検査の実技復習					
第10回						
第11回	トーリックレンズと遠近両用CLを学ぶ。（メニコン）					
第12回	視力検査の実技を復習する。					
第13回	残余乱視の宿題答え合わせ2グループに分けて実習 ①SCL他眼装脱トーリックSCL フィッティング実習 ②オートレフを参考にした視力検査					
第14回						
第15回	オルソケラトロジー（角膜矯正用コンタクトレンズ）を学ぶ。（メニコン）					
第16回	眼鏡とコンタクトレンズの違いを学ぶ（宮川）					
第17回	コンタクトレンズの度数補正を学ぶ（宮川）					
第18回						
第19回	実習事前指導					
第20回						
第21回	3グループに分けて実習					
第22回	①SCL他眼装脱フィッティング度数調整					
第23回	②HCL他眼装脱フィッティング度数調整					
第24回	③視力検査、近視視力検査・加入度、近点計					
第25回						
第26回						
第27回	眼鏡処方について学ぶ。					
第28回						
第29回	国家試験過去問解説					
第30回	国家試験過去問解説					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能検査学Ⅲ		担当講師	志柿俊光 ・ 河崎栄二		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、瞳孔検査方法、視野検査方法について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	① 眼科検査ガイド 第3版（文光堂） ② 視能矯正学 改訂第3版（金原出版） ③ 視能学 第3版（文光堂） ④ 配布プリント					
学習目標	瞳孔検査について理解し、対光反応検査を実習する 視野の概念を理解し、検査の意義と手技を修得する					
成績評価の方法と基準	筆記試験と小テスト、レポート、出席状況にて評価。80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	視野の概念と正常視野を理解する					
第2回	視覚伝導路と神経走行について学ぶ					
第3回	視覚伝導路を具体的に学ぶ					
第4回	視覚伝導路と疾患、視野の関係を理解する					
第5回	視野測定法の種類について学ぶ					
第6回	近見加入度数を理解する					
第7回	動的量的視野測定法①について学ぶ					
第8回	動的量的視野測定法②を実習する					
第9回	静的量的視野測定法①について学ぶ					
第10回	静的量的視野測定法②を実習する					
第11回	瞳孔、対光反応について理解する					
第12回	中心フリッカ検査について理解する					
第13回	感度と閾値と単位、視野に影響を与える因子について学ぶ					
第14回	視野の病期分類、心因性視覚障害について学ぶ					
第15回	動的視野、静的視野、瞳孔・対光反応、中心フリッカ等の検査をグループに分かれて実習し、習得する					
第16回						
第17回						
第18回						
第19回						
第20回						
第21回						
第22回						
第23回						
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						
第29回	まとめ①					
第30回	まとめ②					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能検査学Ⅳ		担当講師	志柿俊光 ・ 河崎栄二		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、外眼部検査方法、眼底検査方法、眼底カメラ撮影方法、電気生理検査方法について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	① 現代の眼科学 改定第13版（金原出版） ② 視能学 第3版（文光堂） ③ 眼科検査ガイド 第3版（文光堂） ④ 配布プリント					
学習目標	各種検査機器について、その検査目的および基本的手技を学び眼疾患との関連を理解する					
成績評価の 方法と基準	筆記試験と小テスト、レポート、出席状況にて評価。80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	外眼部検査（瞼裂幅、眼瞼挙筋検査、眼球突出度検査）を学ぶ。					
第2回	外眼部検査（瞼裂幅、眼瞼挙筋検査、眼球突出度検査）の実技を行う。					
第3回						
第4回	涙液検査（涙液の量的検査、涙膜破壊時間）を学ぶ。					
第5回	涙液検査（シルマー試験、BUT）の実技を行う。					
第6回						
第7回	散瞳薬について学ぶ。点眼の方法を学び、実技を行う。					
第8回	直像鏡、倒像鏡の取り扱い方法について学ぶ。					
第9回	直像鏡、倒像鏡の実技を行う。					
第10回	散瞳・無散瞳カメラの取り扱い方法について学ぶ。					
第11回	散瞳・無散瞳カメラの実技を行う。					
第12回	OCT検査の取り扱い方法とデータの読み方について学ぶ。					
第13回	眼底検査（直像鏡、倒像鏡、眼底カメラ、OCT）の実技を行う。					
第14回						
第15回						
第16回						
第17回	電気生理検査（ERG）の取り扱い方法とデータの読み方について学ぶ。					
第18回	電気生理検査（VEP）の取り扱い方法とデータの読み方について学ぶ。					
第19回	ERG ・ VEPの実技を行う。					
第20回						
第21回						
第22回						
第23回	グループに分かれて外眼部検査・涙液検査・眼底検査・OCT・電気生理検査実技実習を行う。					
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能検査学Ⅴ		担当講師	志柿俊光 ・ 井手浩一		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、眼圧検査方法、色覚検査方法、超音波検査方法について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	① 現代の眼科学 改定第13版（金原出版） ② 視能学 第3版（文光堂） ③ 眼科検査ガイド 第3版（文光堂） ④ 配布プリント					
学習目標	各種検査機器について、その検査目的および基本的手技を学び眼疾患との関連を理解する					
成績評価の 方法と基準	筆記試験と小テスト、レポート、出席状況にて評価。80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	コントラスト感度と縞視力について学ぶ					
第2回	コントラスト感度についての練習問題を行う。					
第3回	コントラスト感度検査の実技を行う。					
第4回						
第5回	眼圧検査について学ぶ。					
第6回	眼圧測定機器の種類と特徴について学ぶ。					
第7回	眼圧検査（触診法、圧平眼圧計、圧入眼圧計）の実技を行う。					
第8回						
第9回	隅角検査について学ぶ					
第10回	色覚異常について学ぶ。					
第11回	色覚検査法（仮性同色表）について学ぶ。					
第12回	色覚検査法（パネルD-15）について学ぶ。					
第13回	色覚検査法（アノマロスコープ）について学ぶ。					
第14回	色覚検査（仮性同色表・パネルD-15・アノマロスコープ）の実技を行う。					
第15回						
第16回	光覚・暗順応検査について学ぶ。					
第17回	超音波検査について学ぶ。					
第18回	超音波検査（Aモード・Bモード）の取り扱い方法、IOL度数計算について学ぶ。					
第19回	超音波Aモード検査・光学式眼軸長検査を用いてIOL度数計算（問診から目標屈折値を設定し、 眼内レンズ度数を選択する）を行う。					
第20回						
第21回	超音波Bモード検査の実技を行う。					
第22回						
第23回						
第24回						
第25回	グループ実習（コントラスト感度検査・眼圧検査・隅角検査・色覚検査・超音波検査）					
第26回						
第27回						
第28回						
第29回	総まとめ					
第30回						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	神経眼科		担当講師	河崎栄二・志柿俊光		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	① 視能学 第3版 ② 配布プリント					
学習目標	視能訓練士に必要な神経眼科の理解、斜視手術の目的、術式、術名を覚える。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	眼の自律神経系（自立神経・瞳孔）					
第2回	眼の自律神経系（近見反応・調節・輻輳開散）					
第3回	脳と神経（脳神経系・眼と関連ある中枢神経と末梢神経）					
第4回	脳と神経（視覚情報処理）					
第5回	眼球運動系 核上性中枢と末梢神経（1）					
第6回	眼球運動系 核上性中枢と末梢神経（2）					
第7回	眼球運動系の復習 核上性眼球運動異常					
第8回	瞳孔の異常について学ぶ					
第9回	視神経疾患について学ぶ					
第10回	視路の疾患について学ぶ					
第11回	眼球運動障害 核上性眼球運動について学ぶ					
第12回	眼球運動障害 麻痺性斜視について学ぶ					
第13回	眼球運動障害 斜視特殊型について学ぶ					
第14回	斜視手術について学ぶ					
第15回	試験問題の演習と解説					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	斜視各論			担当講師	西田 聖平	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事した経験から、斜視の定義、斜視の各型の特徴、斜視の特殊型について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	①視能矯正学 金原出版 ②視能学 第3版 文光堂					
学習目標	斜視の概念、病態、分類について学び理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	外眼筋の作用を理解しているか確認する					
第2回	斜視の基本的知識を理解する					
第3回	斜視の病因論を説明することができる					
第4回	斜視の分類(共同性・非共同性 恒常性・間欠性)について説明することができる					
第5回	斜視の分類(調節関与 輻輳関与 固視による分類)について説明することができる					
第6回	1. 外斜視(恒常性・間欠性)の分類を正確に理解し、説明することができる					
第7回	2. 外斜視(恒常性・間欠性)の分類を正確に理解し、説明することができる					
第8回	1. 非調節性内斜視のメカニズムを理解し、分類することができる					
第9回	2. 非調節性内斜視のメカニズムを理解し、分類することができる					
第10回	交代性上斜位と微小斜視を理解し、説明することができる					
第11回	1. A-V型斜視の分類と筋原説を説明することができる					
第12回	2. A-V型斜視の分類と筋原説を説明することができる					
第13回	1. 麻痺性斜視の基本的知識を理解する					
第14回	2. 麻痺性斜視の基本的知識を理解する					
第15回	1. 動眼神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第16回	2. 動眼神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第17回	滑車神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第18回	外転神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第19回	全外眼筋麻痺のメカニズムを理解し、疾患ごとに説明することができる					
第20回	1. 筋原性斜視(MG,甲状腺眼症)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第21回	2. 筋原性斜視(MG,甲状腺眼症)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第22回	筋原性斜視(ミトコンドリアミオパチー)を理解し、説明することができる					
第23回	1. 筋原性斜視(固定斜視、Brown症候群)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第24回	2. 筋原性斜視(固定斜視、Brown症候群)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第25回	筋原性斜視(外眼筋炎)を理解し、説明することができる					
第26回	機械的斜視(眼窩底骨折)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第27回	機械的斜視(Duane症候群)のメカニズムを理解し、分類することができる					
第28回	総括					
第29回	臨床のお話					
第30回	試験対策					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	眼振各論		担当講師	筒井 健太		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事した経験から眼振について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第2版 文光堂 ②視能矯正学 改訂第3版 金原出版					
学習目標	眼振の種類・検査所見の読み方・治療法を理解する。 外眼振の働きを理解し展開させることが出来るようになる。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	生理的眼振の分類・特徴・実際の動きを理解し説明ができる。					
第2回	先天眼振（狭義）の急速相と緩徐相の動きから静止位を把握し、頭位異常と関連づけて理解・説明できる。					
第3回	潜伏眼振・顕性潜伏眼振の特徴と動き・両者の違いを理解し説明できる。					
第4回	その他の病的眼振（先天・後天）を理解する。					
第5回	眼振の診かたや記載方法を理解し、医師に分かりやすい記載ができるようになる。					
第6回	電気眼振図(ENG)の触り方・進め方を理解し、診断のための検査ができる。					
第7回	眼振に対するプリズム療法を種類別に理解し説明ができる。					
第8回	眼振に対する上記以外の非観血療法、また観血療法（手術）の対象や特徴を理解し説明できる。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能訓練学実習		担当講師	井手浩一 ・ 宮川勇介		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査訓練業務に従事した経験から、眼位兼検査、眼球運動検査について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	①視能学（第3版） 文光堂 ②視能矯正学（改訂第3版） 金原出版 参考図書 視能学エキスパート 視能訓練学 医学書院 眼科検査ガイド（第3版） 文光堂					
学習目標	・これまで学んだ斜視の基本的知識を基に眼位検査、眼球運動検査が出来る。 ・眼位検査、眼球運動検査の実技を習得する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験（80％）に実技試験（20％）を合わせて、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	むき運動およびひき運動検査、輻湊検査について学び、実習を行う。					
第2回						
第3回						
第4回						
第5回	むき運動検査、輻湊検査の確認実技小テストを行う。					
第6回						
第7回	9方向むき眼位検査の眼位撮影法を理解する。					
第8回						
第9回	定性および定量眼位検査について復習し、実習を行う。					
第10回						
第11回						
第12回						
第13回	定性眼位検査の確認実技小テストを行う。					
第14回						
第15回	定量眼位検査(A.P.C.T)の実習を行う。					
第16回						
第17回						
第18回	グループ実習を行う。（Hess赤緑試験、注視野検査、大型弱視鏡、眼位検査、眼球運動検査）					
第19回						
第20回						
第21回						
第22回						
第23回						
第24回	実技試験に向けた実習を行う。					
第25回						
第26回	実技試験					
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能訓練学Ⅰ		担当講師	井手 浩一		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査訓練業務に従事した経験から、斜視の問診ポイント、両眼視機能検査について指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	① 視能学 第3版 文光堂 ② 視能矯正学 改訂第3版 金原出版					
学習目標	大型弱視鏡検査、網膜対応検査、立体視検査について学び、お互いに実習を行うことができる。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験（90％）に出席点（10％）を合わせ、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	大型弱視鏡検査における器械の構造と測定原理及び検査項目について学ぶ。					
第2回	大型弱視鏡検査における器械の構造と測定原理及び検査項目について実習を行う。					
第3回	大型弱視鏡検査の検査の目的について学ぶ。					
第4回	大型弱視鏡の視標スライドの分類、検査前準備について学ぶ。					
第5回	大型弱視鏡の視標スライドの分類、検査前準備について実習を行う。					
第6回	大型弱視鏡における他覚的斜視角について学ぶ。					
第7回	大型弱視鏡における同時視検査について学ぶ。（網膜対応を含む）					
第8回	大型弱視鏡における同時視検査について実習を行う。					
第9回	大型弱視鏡における融像検査について学ぶ。					
第10回	大型弱視鏡における融像検査について実習を行う。					
第11回	大型弱視鏡における立体視検査について学ぶ。					
第12回	大型弱視鏡における立体視検査について実習を行う。					
第13回	大型弱視鏡における眼球運動検査について学ぶ。					
第14回	γ 角の測定について実習を行う。					
第15回	γ 角の測定について実習を行う。					
第16回	大型弱視鏡における同時視・融像・立体視検査を実際に行うことができる。					
第17回	大型弱視鏡における同時視・融像・立体視検査を実際に行うことができる。					
第18回	網膜対応検査について学ぶ。（1）Bagolini線条ガラス試験・位相差ハプロスコープ・ボラテスト・プリズム順応試験					
第19回	網膜対応検査について学ぶ。（2）ファンダスハプロスコープ・赤フィルタ検査・Worth 4 灯試験					
第20回	網膜対応検査について学ぶ。（3）陰性/陽性残像試験・両眼ビズスコープ・残像転送試験					
第21回	網膜対応検査について実習を行う。					
第22回	網膜対応検査について実習を行う。					
第23回	網膜対応検査について実習を行う。					
第24回	立体視検査について学ぶ。（1）成立条件・測定条件・原理					
第25回	立体視検査について学ぶ。（2）検査法					
第26回	立体視検査について実習を行う。					
第27回	立体視検査について実習を行う。					
第28回	立体視検査について実習を行う。					
第29回	立体視検査について実習を行う。					
第30回	総まとめ					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士		科目区分	専門分野	
科目名	視能訓練学Ⅱ		担当講師	高木 満里子	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
講義方法	講義、実習				
使用教科書・ 使用教材	小林 義治 他 編：視能学、第3版、文光堂、2022. 副読本 公益社団 日本視能訓練士協会監修：視能学エキスパート「視能訓練学」医学書院				
学習目標	視機能の評価と訓練を専門とする視能訓練士は、治療につながる評価の考え方を身につけ、弱視・斜視の治療に必要な視機能評価の考え方と検者としての姿勢を習得する。				
成績評価の 方法と基準	期末試験（90％）に学習態度・小テスト（10％）分を合わせ、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	医療専門職である視能訓練士の像を描くことができる				
第2回	眼の構造と進化を知る				
第3回	小児視力の発達と感受性期について説明することができる				
第4回	弱視の病因論について述べるができる				
第5回	弱視の定義と分類を関係づけることができる				
第6回	固視検査の意義と検査がわかる				
第7回	弱視の医療面接（メディカル インタビュー）の必要性がわかる				
第8回	斜視は症候群であることを理解する。混乱視、複視を図示することができる				
第9回	両眼視を理解し、眼位と両眼視機能を関連づけることができる				
第10回	斜位、斜視の定義がわかり、眼位検査ができる				
第11回	斜視の各型を分類することができる				
第12回	内斜視の分類ができる				
第13回	屈折に関与する内斜視を述べることができる				
第14回	外斜視の分類ができる				
第15回	斜視の医療面接（メディカル インタビュー）の必要性がわかる				
第16回	眼球運動検査ができる（正常範囲、眼性頭位異常の検査、機械を使った検査）				
第17回	両眼視機能検査ができる				
第18回	大型弱視鏡の検査の評価と説明ができる				
第19回	斜視と網膜対応との関連がわかる				
第20回	網膜対応検査を列挙できる				
第21回	網膜対応の（大型弱視鏡）評価の説明ができる				
第22回	斜視症例における網膜対応の評価ができる				
第23回	上斜筋麻痺の検査を習得する				
第24回	A-V型斜視、交代性上斜位、微小斜視、上下斜視、回旋斜視の検査ができる				
第25回	麻痺性斜視について外眼筋の作用と眼球運動について説明ができる				
第26回	視覚情報処理経路を理解し、入力系、統合系、出力系の3つの系の検査名を列挙できる				
第27回	検査の質が治療結果に影響を及ぼすことを考えて行動できる				
第28回	視能矯正の歴史を知る				
第29回	データを取る人ではなく治療を導く専門職であることを理解する				
第30回	医療倫理の基礎（患者への敬意・説明責任・信頼関係）を習得する				

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士			科目区分	専門分野	
科目名	視能訓練学Ⅲ			担当講師	高木 満里子	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義、実習					
使用教科書・ 使用教材	小林 義治 他 編：視能学、第3版、文光堂、2022. 副読本 公益社団 日本視能訓練士協会監修：視能学エキスパート「視能訓練学」医学書院					
学習目標	“治療につながる評価”をもとに、診断と治療へ応用する力を高める。臨床で求められる視能矯正・訓練法を体系的に学び、治療を組み立て実践できる専門職としての基礎を確立する。					
成績評価の方法と基準	期末試験（90％）に学習態度・小テスト（10％）分を合わせ、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	治療につながる評価”を振り返り、自己分析を通して治療・訓練へ進む準備を整える。					
第2回	視能訓練士の役割を、治療を構築する専門職として再定義し、臨床での責任を理解する。					
第3回	小児視力の発達と感受性期をもとに、早期治療の意義と治療選択の根拠を説明できる。					
第4回	視能健康診査の意義がわかる					
第5回	生育基本法と母子健康手帳を理解する					
第6回	小児視力の特性と視覚の未熟性を知り、医療面接の重要性を理解する					
第7回	弱視の基本的知識から治療法の導入ができる					
第8回	弱視の種類別による治療法が説明できる					
第9回	視力増強訓練における薬理学的視能矯正の説明ができる					
第10回	歴史的弱視視能矯正を理解するとともに弱視治療の効果判定ができる					
第11回	弱視症例（症例呈示）の治療を理解する					
第12回	先天内斜視、後天内斜視における基本的治療の説明ができる					
第13回	屈折に關与する内斜視、その他の内斜視治療について述べることができる					
第14回	内斜視症例における視能矯正の組み立てができる					
第15回	間欠性外斜視の基本的治療と視能矯正訓練について説明することができる					
第16回	恒常性外斜視の基本的治療を説明することができる					
第17回	外斜視症例における視能矯正の組み立てができる					
第18回	抑制除去訓練、融像訓練（1）ができる					
第19回	抑制除去訓練、融像訓練（大型弱視鏡）（2）ができる					
第20回	斜視（その他の斜視）の基本的治療を修得する。 （A-V型斜視、交代性上斜位の治療）					
第21回	微小斜視、上下斜視、回旋斜視の基本的治療を習得する					
第22回	大型弱視鏡の検査の評価ができ視能訓練の説明ができる					
第23回	網膜対応異常の矯正訓練（大型弱視鏡）の説明ができる					
第24回	斜視症例の網膜対応異常の矯正訓練と融像訓練を実施することができる					
第25回	麻痺性斜視治療を修得する（後天性外眼筋麻痺の視能矯正）					
第26回	光学的視能矯正（斜視と眼振）を実施することができる					
第27回	複視に対する光学的治療法を応用することができる					
第28回	薬理学的視能矯正の対象となる症例を列挙することができる					
第29回	視能矯正の実際を修得する（ロール・プレイイング）					
第30回	自らの習熟度を知り、臨地実習に対応できるようにする					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	ロービジョン学		担当講師	志柿 俊光		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。ロービジョン外来に従事した経験から、ロービジョンケアに必要な検査、補助具の選定、評価や対応について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	① 視能学エキスパート ロービジョンケア（医学書院） ② 視能学 第3版（文光堂） ③ 配布プリント					
学習目標	ロービジョンの概念を学び、ロービジョンケアを理解する。ロービジョンケアに必要な検査、補助具の選定、評価や対応について理解する。					
成績評価の方法と基準	筆記試験と出席で評価。80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	視覚障害の定義について学ぶ。					
第2回	身体障害者障害程度等級の視力・視野基準について学ぶ。					
第3回	身体障害認定基準及び認定要領から解釈と運用を学ぶ。					
第4回	ロービジョンケアの概念について学ぶ。					
第5回	アイフレイル、日常生活動作、支援・連携について学ぶ。					
第6回	光学的補助具と拡大率について学ぶ。					
第7回	非光学的補助具と日常生活用具について学ぶ。					
第8回	代表的疾患（緑内障、網膜色素変性）と対応について学ぶ。					
第9回	代表的疾患（糖尿病網膜症、加齢黄斑変性）と対応について学ぶ。					
第10回	視覚障害体験キットを作成する。					
第11回	視覚障害体験キットを用いて体験する。					
第12回	公的サービスについて学ぶ。					
第13回	過去の視能訓練士国家試験問題（ロービジョン分野）を解く。					
第14回	過去の視能訓練士国家試験問題（ロービジョン分野）を解説する①。					
第15回	過去の視能訓練士国家試験問題（ロービジョン分野）を解説する②。					

令和 8 年度 視能訓練士学科 シラバス

西日本教育医療専門学校
第 3 学年

令和6年度入学生カリキュラム

区分	授 業 内 容	履修時数				履修 単位
		1 年	2 年	3 年	計	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					
	心理学	30			30	2
	文章表現	30			30	2
	生物学	30			30	2
	物理学	30			30	2
	数学・統計学	30			30	2
	英語	30			30	2
	保健体育	15			15	1
	情報処理	30			30	2
	コミュニケーションスキル	15			15	1
専門基礎分野	(1) 人体の構造と機能及び心身の発達					
	解剖学	30			30	2
	生理学	30			30	2
	臨床心理学	30			30	2
	保育学Ⅰ	15			15	1
	保育学Ⅱ	15			15	1
	(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	病理学		15		15	1
	眼科薬理学		30		30	2
	内科学		15		15	1
	高次脳障害学		15		15	1
	精神医学		15		15	1
	公衆衛生学		26		26	1
	看護学	20			20	1
	救急医療		15		15	1
	(3) 視覚機能の基礎と検査機器					
	視器の解剖・生理学	30			30	1
	視覚生理学	30			30	1
	眼科総合医療論		30		30	1
	眼科臨床検査学		60		60	2
	総合視能学			120	120	4
	(4) 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念					
	医療関係法規と医療倫理		30		30	2
	社会福祉	15			15	1
	医学概論	15			15	1
	眼科リハビリテーション	30			30	2
	特別支援教育	15			15	1
専門分野	(1) 基礎視能矯正学					
	生理光学Ⅰ	30			30	1
	生理光学Ⅱ	30			30	1
	生理光学実習Ⅰ		60		60	2
	生理光学実習Ⅱ		60		60	2
	基礎視能矯正学Ⅰ	60			60	2
	基礎視能矯正学Ⅱ	60			60	2
	基礎視能矯正学Ⅲ	60			60	2
	視能矯正学研究法			60	60	2
	(2) 視能検査学					
	視能検査学Ⅰ	60			60	2
	視能検査学Ⅱ	60			60	2
	視能検査学Ⅲ		60		60	2
	視能検査学Ⅳ		60		60	2
	視能検査学Ⅴ		60		60	2
	検査画像解析学			15	15	1
	(3) 視能障害学					
	眼疾病学	30			30	1
	神経眼科		30		30	1
	弱視各論	15			15	1
	斜視各論		60		60	2
	眼振各論		15		15	1
	(4) 視能訓練学					
	視能訓練学実習		60		60	2
	視能訓練学Ⅰ		60		60	2
	視能訓練学Ⅱ		60		60	2
	視能訓練学Ⅲ		60		60	2
	ロービジョン学		30		30	2
	(5) 臨地実習					
	臨地実習			600	600	15
	臨地実習事前・事後指導			40	40	1
各学年年間合計		920	926	835	2681	106
合計						

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	総合視能学			担当講師	3 年生担任	
対象学年	3 年	履修時数	120 時間	単位数	4	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	視能学、文光堂 現代の眼科学、医学書院 過去の国家試験問題 等					
学習目標	国家試験に向けて、各分野での出題が多い基礎知識を定着させる。そして、自分の苦手分野を把握し、反復学習する事により苦手分野を克服し、国家試験合格を目指す。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて評価し、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし 59 点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	ホルモンの機能を理解する。					
第 2 回	骨格筋、横紋筋、平滑筋を理解する。					
第 3 回	内臓の働きを理解する。					
第 4 回	自律神経系について理解する。					
第 5 回	角膜・水晶体の解剖を理解し、検査結果と疾患を理解する。					
第 6 回	ぶどう膜の解剖を理解し、検査結果と疾患を理解する。					
第 7 回	ぶどう膜疾患の検査結果と疾患を理解する。					
第 8 回	網膜の解剖を理解し、検査結果と疾患を理解する。					
第 9 回	緑内障のメカニズムを理解し、固有の検査結果を理解する。					
第 10 回	眼底写真と疾患を結びつける。					
第 11 回	全身疾患と関連する眼疾患を理解する。					
第 12 回	小児特有の眼疾患を理解する。					
第 13 回	前回までの範囲の国家試験問題を確認する。					
第 14 回	屈折異常の定義を理解し、明視域を理解する。					
第 15 回	調節力と明視域を理解する。					
第 16 回	屈折異常と焦線の関係を理解する。					
第 17 回	眼光学の暗記すべき数値を確認する。					
第 18 回	眼鏡・コンタクトレンズの特性を理解し、knappの法則を理解する。					
第 19 回	プリズムの合成の計算できる。					
第 20 回	バージェンスの法則、プレンティスの法則を利用した計算問題が解ける。					
第 21 回	過去の国家試験問題を利用し生理光学分野の復習する。					
第 22 回	視力検査の条件と検査方法を理解する。					
第 23 回	ランドルト環の大きさ、縞視力の計算を理解する。					

第 2 4 回	対数視力について理解する。
第 2 5 回	視野検査と疾患の関係を理解する。
第 2 6 回	電気生理検査と疾患の関係を理解する。
第 2 7 回	色覚検査の検査条件を理解する。
第 2 8 回	色覚異常について理解する。
第 2 9 回	暗順応検査について理解する。
第 3 0 回	電気生理検査原理と疾患を理解する。
第 3 1 回	過去の国家試験問題を利用し視覚生理分野の総括する。
第 3 2 回	眼薬理の作用機序について理解する。
第 3 3 回	薬物の副作用について理解する。
第 3 4 回	視能訓練士法を中心に医療関係法規について理解する。
第 3 5 回	視神経・視路の障害を理解する。
第 3 6 回	眼振について理解する。
第 3 7 回	眼振の治療法について理解する。
第 3 8 回	外眼筋の作用と眼球運動について理解する。
第 3 9 回	眼球運動に関係する法則について理解する。
第 4 0 回	輻湊、開散を理解し A C / A の検査・計算ができる。
第 4 1 回	P a n u m の融像感覚圏について理解する。
第 4 2 回	複視、複像検査について理解する。
第 4 3 回	眼位定性検査の原理、方法、検査対象を理解する。
第 4 4 回	眼位定量検査の原理、方法、検査対象を理解する。
第 4 5 回	網膜対応検査の原理、方法、検査対象を理解する。
第 4 6 回	眼位検査の臨床問題が解ける。
第 4 7 回	網膜対応検査の臨床検査が解ける。
第 4 8 回	共同性斜視について理解する。(1)
第 4 9 回	共同性斜視について理解する。(2)
第 5 0 回	麻痺性斜視について理解する。
第 5 1 回	斜視特殊型について理解する。
第 5 2 回	共同性斜視の臨床問題が解ける。
第 5 3 回	麻痺性斜視の臨床問題が解ける。
第 5 4 回	斜視特殊型の臨床問題が解ける。
第 5 5 回	斜視訓練を理解し臨床問題が解ける。
第 5 6 回	弱視訓練を理解し臨床問題が解ける。
第 5 7 回	斜視手術を理解し、臨床問題が解ける。
第 5 8 回	ロービジョンの定義と視覚障害等級を理解する。
第 5 9 回	ロービジョンの光学的補助具と非光学的補助具を理解する。
第 6 0 回	ロービジョンの疾患別対応を理解する。

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能矯正学研究法		担当講師	3 年生担任		
対象学年	3 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	各々の研究に必要な教科書、論文					
学習目標	各自担当教員と面談しながら、研究テーマを定め、それに沿って実験・調査・論文検索を行う。発表抄録を作成し、卒業研究発表会でプレゼンテーションする。					
成績評価の 方法と基準	発表抄録（40％）、卒業研究発表（60％）100点満点で80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
研究の進め かた	・ 自主的に計画的に担当教員と面談しながら進めていく。 ・ 研究方法について理解する。 ・ 興味のあるキーワードから文献を検索できる。 ・ 研究テーマを絞り込むことができる。 ・ エビデンスに基づいた研究発表を行う。 ・ 実験等を行い発表に必要なデータを収集する。 ・ 実験および実験結果をまとめスライドを作成する。 ・ 発表抄録を作成する。 ・ 発表原稿を作成する。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	検査画像解析学			担当講師	花月 陸	
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1	
講義方法	講義 プロジェクターを用いた授業（配布資料あり）					
使用教科書・ 使用教材	視能学、文光堂 現代の眼科学、医学書院 過去の国家試験問題 等 配布資料あり					
学習目標	眼科領域における各種画像検査装置（OCT、眼底カメラ、前眼部解析装置等）の原理を理解し、得られた画像を正しく評価・解析するための知識と技能を習得する。また、画像から病態を推測するための基礎能力を養う。					
成績評価の方法と基準	筆記試験にて評価し、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	眼底写真の評価とOCTの基礎					
第2回	前眼部OCTの基礎と断層像の評価					
第3回	前眼部OCTによる角膜形状解析の評価					
第4回	後眼部OCTの基礎と正常眼の理解					
第5回	後眼部OCTによる網膜疾患の評価					
第6回	後眼部OCTによる網膜疾患の評価					
第7回	後眼部OCTによる緑内障の評価					
第8回	後眼部OCTアンギオグラフィーの基礎					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	臨地実習			担当講師	3年生担任	
対象学年	3 年	履修時数	630 時間	単位数	14 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・ 使用教材	特になし					
学習目標	実際の医療現場で視能訓練士の役割を理解し、実習生として何ができるか考え、行動できる。学内実習で学んだ視能検査が正確に出来る。病気を持つ患者様の苦しみ、苦勞（身体的、精神的、心理的、社会的）を知る。チーム医療の一員としての責任と自覚を養う。視能訓練士として5年以上の臨床経験を持つ教員が実習指導を行う。					
成績評価の 方法と基準	実習評価表の判定基準に基づく。					
実習の内容	・ 専門職への適性及びふさわしい態度に努める。 ・ 視能訓練士に必要な情報を収集し、検査・訓練を実践する。 ・ 簡潔明瞭で相手に伝わる記録・報告書をまとめることが出来る。					

令和 8 年度 講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	臨地実習事前・事後指導			担当講師	3 年担任	
対象学年	3 年	履修時数	40 時間	単位数	1	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	配布資料					
学習目標	学習した知識・技術を実際の臨床の場で応用・展開し、実践できる能力を養う。 患者の心理的状況や日常生活への影響を考慮した検査・訓練・助言ができる姿勢を養う。					
成績評価の 方法と基準	臨地実習の総まとめにて評価し、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし 59 点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	【事前指導】 実習生としての心構えと態度:医療現場にふさわしい服装、言葉遣い、挨拶、態度を説明し、実践できる。 実習施設の概要、組織、ルールを理解し、遵守する態度を持てる。 実習目標の設定:自身の課題を明確にし、具体的に達成可能な実習目標を設定できる。 医療安全と危機管理の実践:学内で学んだ医療安全の知識（患者確認、ヒューマンエラー対策、転倒防止）を実習場面を想定して説明できる。 事故やトラブル、ハラスメント発生時の緊急連絡体制と対応方法（報告・連絡・相談の徹底）を理解できる。 感染対策と救急対応の復習:標準予防策（スタンダードプリコーション）に基づいた手指衛生、個人防護具（PPE）の着脱を確実に実践できる。 院内での患者急変時の対応（初期対応、BLS、応援要請）の流れを説明できる。 コミュニケーションと倫理の実践:医療倫理（守秘義務、個人情報保護、患者の権利尊重）を理解し、遵守できる。 患者、医師、コメディカルスタッフとの適切なコミュニケーション（医療面接の技法、SBARを用いた報告など）を実践できる態度を持てる。 インフォームド・コンセントのプロセスにおける視能訓練士の役割を理解できる。 基本技術の確認:実習で使用する基本的な検査（視力、視野、屈折など）の原理、手順、注意点を復習し、実施できる。					
第 2 回						
第 3 回						
第 4 回						
第 5 回						
第 6 回						
第 7 回						
第 8 回						
第9回	【事後指導】 実習で経験した症例を客観的に分析し、病態への理解を深めることができる。 実習報告会にて他学生の報告を聞くことで、自身の未経験分野の知識を補完することができる。 発表・質疑応答を通じて、自らの経験を他者に分かりやすく伝えることができる。 臨床現場で求められる接遇やチーム医療の役割を再認識し、学習課題を明確にすることができる。 臨地実習の総まとめ（または症例報告）を論理的かつ適切に作成できる。 実習での気づきを自己評価し、国家試験合格に向けた学習意欲を高めることができる。					
第10回						
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
第16回						
第17回						
第18回						
第19回						
第20回						